

サークルワン 支援プログラム

進路準備型放課後等デイサービス

法人理念

すべての人が夢を持ち、夢に向かい挑戦できる社会をつくる

支援方針

就職や進学に必要なスキルの取得をサポートし、自立して生活が営めるように支援を行う。

営業時間

平日:14:00~17:30 長期休み:10:00~16:00

送迎実施の有無

応相談

本人支援

「本人支援」とは、発達に困難のある子どもの個々の特性と5領域※を相互に関連づけた支援プログラムであり、根拠のある支援を実現するためのものです。「本人支援」の大きな目標は、発達に困難のある子どもが将来、日常生活や社会生活を円滑に営むことができるよう、自立・自活を援助することにあります。

※5 領域…1. 健康・生活、2. 運動・感覚、3. 認知・行動、4. 言語・コミュニケーション、5. 人間関係・社会性

1. 健康・生活 領域 ～心身の健康や生活に関すること～

<ねらい>

- (イ)健康状態の維持・改善
- (ロ)生活のリズムや生活習慣の形成
- (ハ)基本的な生活スキルの獲得

[支援内容]

(a)健康管理

- ・利用時に、健康状態のチェックと必要な対応を行います。児童の障害や疾患の特性によっては保護者や学校等の支援者に対して口頭でも心身の状況の確認を行います。
- ・利用中に体調の変化がある場合には適切な対処(例:医療機関への受診、保護者への状況の報告など)を行います。

(b)健康の増進

- ・働くために必要な体力や生活リズムの提案や支援を行い、健康の増進と維持をサポートします。
- ・食育を通じて栄養バランスの理解を促し、家庭での食事を支援します。

(c)基本的な生活スキルの獲得

- ・食事、衣類の着脱、排泄、身なりを整える等の生活を営む上で必要となる基本的技能の習得について児童の障害特性に応じた支援・指導を行います。
- ・自立した生活に必要なスキルを獲得できるプログラムを提供し、その習得と実行が行えるようにします。

(d)構造化等により生活環境を整える

- ・社会に進出後も継続的にサポートを行い、仕事の相談や生活の相談が出来る環境を提供します。

2. 運動・感覚 領域 ～運動や感覚に関すること～

<ねらい>

- (イ)健康の増進と維持の習得
- (ロ)社会でのストレスの発散法の習得
- (ハ)保有する感覚の総合的な活用

[支援内容]

(a)身体機能の向上

・勤務や通勤の中で必要な体力や筋力が向上するように支援を行います。

(b)協調性やバランス感覚の養成

・チームワークを必要とするスポーツやゲームなどの支援プログラムを通じて、協調性やバランス感覚などが養えるように支援・指導を行います。

(c)ストレス解消

・運動を通じてストレス解消法を学んでいただき、社会進出後のストレス解消が自発的に行えるように支援を行います。

3. 認知・行動 領域 ～認知と行動に関すること～

<ねらい>

- (イ) 認知の発達と行動の習得
- (ロ) 空間・時間、数等の概念形成の習得
- (ハ) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

[支援内容]

(a) 計画性や課題解決能力の育成

・仕事の段取りや問題解決のために必要なスキルを学ぶ機会を提供し、社会進出後に失敗から改善予防策を自分で行えるようにサポートをします。

(b) 時間管理

・就業時間や休憩時間、通勤に必要な時間の感覚を養う機会を提供し、時間の大切さを学び、時間管理能力を身に付けていただきます。

(c) 注意力や集中力の向上

・勤務に必要な集中力を向上することが出来る様々なプログラム(ビジョントレーニング、マッチング、SST)を通じて養う機会の提供を行います。

(d) マナー・モラルの習得

・日常生活場面での時と場所に適したマナーやモラルを SST、社会科見学、職場見学、工場見学を通じて養う機会を提供し、社会生活の中で適した行動が取れるように支援を行います。

4. 言語・コミュニケーション 領域 ～言語・コミュニケーションの獲得に関すること～

<ねらい>

(イ)言語の形成と活用

(ロ)コミュニケーションの基礎的能力の向上

(ハ)コミュニケーション手段の選択と活用

[支援内容]

(a)実践的な(実用的)言語能力の習得

・社会人としての必要な言葉遣いを学び、他者との適切なコミュニケーションを取れるように支援を行います。

(b)聞き方や話し方の練習

・効果的なコミュニケーションを取るための練習を行い、他者との適切な距離感を形成できるように支援を行う。

・入社面接等の訓練を行い、社会進出への支援を行う。

(c)プレゼンテーション能力の育成

・事業提案や立案など、自分の考えを他者に具体的に伝える方法を学ぶ機会を提供します。

5. 人間関係・社会性 領域 ～人との関わりに関すること～

<ねらい>

- (イ)他者との関わり(人間関係)の形成
- (ロ)自己の理解と行動の調整
- (ハ)仲間づくりと集団への参加

[支援内容]

(a)社会ルールやマナーの習得

・社会生活を送る上で必要なルールやマナーを学び、身に着けて実践する機会を提供することにより、より実践的な環境での支援サポートを行います。

(b)協調性や協力性の育成

・グループワークやボードゲーム、カードゲームなどの様々な形式で協調性と協力性を学ぶ環境を整え、社会進出後にチームやグループでの行動に必要な協調性や協力性を学ぶ機会を提供します。

(c)異年齢との交流

・職場見学や職場体験、社会科見学などを通じて異年齢とコミュニケーションを取る機会を設置し、社会生活の中で必要な異年齢との交流方法を身に着けます。

(d)身だしなみ等の印象づくり

・面接時の身だしなみや勤務態度など、印象に関わる内容を学ぶ機会を提供し、就労前から意識をできるように支援をします。

移行支援

「移行支援」とは、地域社会で生活する平等の権利の享受と、地域社会への参加・包容(インクルージョン)の考え方に立ち、障害の有無にかかわらず、全ての子どもが共に社会進出ができるよう、障害のある子どもに対する「移行支援」を行い、利用者が放課後等デイサービスから次のステップ(高校、特別支援学校高等部、職業訓練校、一般企業など)へスムーズに移行できるよう、必要な支援を行うことです。

<ねらい>

- (イ)企業等への配慮された移行支援
- (ロ)移行先の学校や企業等との連携(支援内容等の共有や支援方法の伝達)
- (ハ)移行先の企業、学校等への支援と支援体制の構築
- (ニ)同年代の子どもとの仲間作り

[支援内容]

- (a)合理的配慮を含めた移行に当たっての移行先の環境の確認
- (b)具体的な移行先との調整
- (c)家族への情報提供やオープンキャンパスおよび学校面談の同行
- (d)進学や就職への独自カリキュラムによるフルサポート
- (e)連携企業における職場実習や職場見学
- (f)進路相談や将来に向けた生活像の検討
- (g)学校、職業訓練校、企業などの関係機関との連携と移行サポート
- (f)相談支援専門員との連携・情報共有

家族支援

「家族支援」とは、障害のある子どもを育てる家族に対して、子どもの「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本とし、利用者の家族が子どもの成長をサポートし、将来の自立を促せるよう、必要な支援を行うことです。

<ねらい>

- (イ) 家族からの相談に対する適切な助言やアタッチメント形成(愛着行動)等への支援
- (ロ) 家庭の子育て環境の整備
- (ハ) 関係者・関係機関との連携による支援

[支援内容]

- (a) 児童に関する情報の提供と定期的な支援調整
- (b) 個別相談を定期的に行い、将来に対しての不安や目標の微調整を支援
- (c) 児童の障害特性の課題についての気づきの促しとその後の支援
- (d) 児童を支援する輪を広げるための橋渡し・保護者会の実施
- (e) 相談支援専門員との定期的な支援会議や支援計画の調整
- (f) 関係者・関係機関の連携による支援体制の構築
- (g) 家族支援プログラム(個別の面談等)の実施

地域支援・地域連携

「地域支援」とは、障害のある子どもの地域社会への参加・包容(インクルージョン)を推進するため、保育所等の子育て支援機関等の関係機関との連携を進め、児童が地域社会の一員として、地域の人々との交流を深め、地域活動に参加できるよう、必要な支援を行うことです。

<ねらい>

- (イ)地域における連携の核としての役割
- (ロ)地域の子育て環境の構築
- (ハ)地域の支援体制の構築

[支援内容]

- (a)地域ボランティア活動への参加など、地域貢献の機会を提供します。
- (b)医療機関、保健所、児童相談所等の専門機関との連携
- (c)教育機関の関係者等との連携
- (d)地域支援の体制の構築のための会議への出席
- (e)個別のケース検討のための会議への出席
- (f)(自立支援)協議会等への参加
- (g)進路準備型放課後等デイサービスに対する理解促進のための地域への積極的な広報活動
- (h)地域企業との障害者雇用の連携

職員の質の向上

1. 外部講師や外部機関を活用した研修
 - 茨城県理学療法士講師による事例検討研修
 - 作業療法士講師による事例検討研修
 - 言語聴覚士講師による事例検討研修
2. 専門資格や認定に関する研修
 - 慶応義塾大学 ABA セラピスト認定制度
 - 選抜者留学制度(国立リハビリテーション学院等)
3. 職員の段階的成長を支援する研修
 - 新卒者研修、2 年目、3 年目研修
 - 中途入社研修
 - クラス運営研修
 - 事業理解のための入職時研修
4. 管理者やリーダー向けの研修
 - 管理者研修
 - 児発管研修
5. 安全・リスク管理に関する研修
 - 普通救急研修
 - 交通事故防止研修
 - 虐待防止等研修
 - 身体拘束等の適正化研修
6. 事業所内で行う研修
 - 事例検討会議
 - 専門的支援実施研修
7. 定期的・補助的な研修
 - 支援法 DVD 研修(月例)

主な行事等

スポーツ関連

- 鹿島アントラーズコーチによるサッカー体験教室
- 日本体育大学名誉教授 野村一路先生による親子体操教室
- NHK でも紹介された重度心身障害児～健常児まで楽しめるユニバーサル野球

教育・学習関連

- 慶応義塾大学講師によるペアレントカフェ
- ドローン教室
- 筑波大学医学医療系教授らによる子育てセミナー

動物・自然体験

- ふれあい移動動物園 ANIMA

季節行事

- お誕生日会
- ひな祭り
- イースター
- 七夕
- 運動会
- 夏祭り
- ハロウィン
- クリスマス会
- お正月
- 卒園式

防災・安全

- 各種避難訓練(地震、火災・消火、風水害、不審者等)

保護者向け

- 保護者会(年二回)

用語の説明:

発達支援・教育に関する用語

TEACCH

TEACCHは、自閉症の特性を持つ人々を支援するプログラムで、構造化された環境を提供し、個別のニーズに応じた活動を通じて自立を促します。視覚支援やスケジュール管理を活用し、スキル習得や生活の質の向上を目指します。教育や家庭内での適応をサポートする枠組みとして、広く利用されています。

PECS

PECSは、絵カードを使用して意思疎通を図るコミュニケーションシステムです。言語が困難な人がカードを介してニーズや感情を伝えることを可能にします。自発的なコミュニケーションの促進を目標とし、日常生活での表現能力を高めるツールとして多くの現場で活用されています。

ABA療育

ABA療育は、行動分析学に基づく支援方法で、望ましい行動を強化し、不適切な行動を減らすことを目指します。強化理論やシェイピング法を活用し、日常生活や社会生活に必要なスキルを段階的に習得させます。自閉症や発達障害児への支援で広く実践されています。

プロンプト法

プロンプト法は、行動を補助するために適切な手助けを提供し、徐々に減らして自立を促す方法です。例えば、声掛けや身体的な誘導を行いながら、最終的には対象者が自分の力で行動できるよう支援します。行動学習や療育の現場で有効な手法です。

シェイピング法

シェイピング法は、目標行動に至るまでの小さな段階を強化しながら、段階的に目標行動を形成する手法です。新しいスキルを獲得する際に活用され、成功体験を積み重ねることで、モチベーションを高めながら行動を定着させます。

SST (Social Skills Training)

SSTは、社会的スキルの習得を目的としたトレーニングで、挨拶や感情表現、問題解決能力などを具体的な場面を想定して学びます。発達障害のある人々のコミュニケーション力を高めるために用いられる実践的な支援法です。

ビジョントレーニング

ビジョントレーニングは、視覚機能を向上させる訓練です。眼球運動や視覚認知能力を高め、学習やスポーツのパフォーマンス改善を目指します。視覚情報の処理が苦手な子どもやスポーツ選手に用いられます。

マッチング課題

マッチング課題は、同じものを組み合わせたり、関連性のある項目を結び付けたりする訓練です。対象者の認知能力や判断力を高める目的で、発達支援や教育現場で使用される基本的な課題の一つです。

医療・リハビリテーションに関連する用語

作業療法士

作業療法士は、日常生活での動作や作業能力を改善し、生活の質を向上させる専門職です。身体機能の回復を目的とした訓練や、環境調整を通じて、自立した生活を支援します。高齢者や障害者、怪我からの回復を目指す人々を対象とします。

言語聴覚士

言語聴覚士は、発話や言語、聴覚、嚥下の問題に対する支援を行う専門職です。評価や訓練を通じて、コミュニケーション能力や嚥下機能の向上を目指します。言語発達が遅れている子どもや、高齢者の摂食嚥下障害など、幅広い対象に対応します。

理学療法士

理学療法士は、運動や物理療法を用いて、身体機能の改善や維持を支援する専門職です。関節可動域の改善、筋力の増強、バランス訓練を通じて、怪我や病気による身体の障害を克服し、自立した生活を支援します。

抗重力肢位

抗重力肢位は、重力に逆らって姿勢を維持する体勢を指します。座位や立位が含まれ、筋力やバランス能力の訓練で用いられます。日常生活での移動や作業を安全かつ効果的に行うための重要なスキルです。

誤嚥性肺炎

誤嚥性肺炎は、食べ物や唾液が誤って気管に入り、感染症を引き起こす肺炎です。特に嚥下障害のある高齢者に多く見られ、適切な嚥下指導や食事管理が予防に有効です。

褥瘡

褥瘡は、長時間の圧迫による血流障害で皮膚や組織が損傷する状態です。寝たきりの人に発生しやすく、定期的な体位交換や適切なスキンケアが予防に重要です。

廃用症候群

廃用症候群は、長期間の活動低下や安静によって筋力や身体機能が衰える状態です。適切なりハビリや活動の促進が、機能低下の予防に欠かせません。

摂食指導

摂食指導は、嚥下や咀嚼に問題がある人々に、安全かつ適切な食事方法を指導する活動です。個々の能力に応じた食形態の提案や、嚥下機能訓練を通じて、栄養摂取を支援します。

食形態

食形態とは、食べ物の形状や硬さを調整し、嚥下や咀嚼能力に応じた食事を提供することを指します。ゼリー状、ミキサー食など、適切な形態を選択することで安全な摂食が可能になります。